

平成 26 年度 東北ブロック 地域相談支援フォーラム

実務者フォーラム（相談支援実務者対象研修会）プログラム

日時：2014 年 7 月 26 日（土）10：00～17：00（09：20 開場）

会場：仙台国際センター「桜」(2F)(宮城県仙台市青葉区青葉山無番地)

(09:30～09:55) 受付後の待ち時間を利用して、同郷の参加者達と本日のプログラムの活用作戦会議、等々

(09:55 頃に午前中のグループ編成毎に決められた場所に着席)

10:00 共催者より開会挨拶

国立がん研究センターがん対策情報センター長 若尾 文彦
宮城県立がんセンター 総長 西條 茂
(東北がんネットがん患者相談室専門委員長)

10:10 セッション1：「がん相談支援センターの様々な発展経緯」：

～12:15 院内の関係者から理解を得る、関連診療部門との信頼関係を構築する等、
院内の足場を確立する過程で私たちが心がけてきたこと

話題提供 3 件<それぞれ 10 分ずつ+α>+グループディスカッション 70 分

①：十和田市立：新谷委員

②：中通総合：船水委員

③：公立置賜：高石委員

ディスカッションハイライトの発表+部会長からのコメント（20分- 司会指名方式）

12:15～13:15 (セッション2の配置で) 昼食 (各自弁当を持って席を移動)

<午後もMC(モデレーター)は変えず続投>

13:15 セッション2：「1施設を超えて患者さん・そのご家族を支えるためにできること」

～15:00 対応力(専門性、体制面のキャパ等々)の空白、窓口の(地理的な)空白等、
いろいろな「相談支援の空白」を少なくしていく為に、私達ができること

話題提供 4 件 <計 30～35 分>+ディスカッション 55～60 分

④：竹田総合：佐藤委員

⑤：八戸市立市民：大角委員+青森県田中主幹

⑥：東北大がんセンター先進包括的がん医療推進室真溪さん+宮城県大江主幹

⑦：JA 秋田厚生連 由利組合総合病院：武田委員

ディスカッションハイライトの発表（15分）

15:00～15:10 ミニコーヒーブ레이크+（グループ組換え、県単位で）

15:10 同郷仲間（県単位）で体験共有：ディスカッション 30 分（他県・他施設の取組みをみて改めて
認識した自施設の特徴や強味、本日学んだことを今後県部会等でどう活用していくか、等）

（東北 6 県以外からの参加者は 1 テーブルに集まる）

15:45 各グループより県毎に話あった内容を発表 <40 分：7～8*グループ(仮)×4 分>

～16:30 (後半 10 分+αで参加した行政担当者よりコメント)

16:30 平成 27 年度以降の地域相談員研修について（高山：10 分）+QA <10 分>

16:50 実行委員代表 2 名からの挨拶 + 閉会挨拶（若尾）

17:00 閉会・アンケート記入・公開セミナー準備

共催： 独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター+東北がんネットワーク がん患者相談室専門委員会

後援： 青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県（順不同）

協賛： アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）

★ 宮城以外の 5 県で 5 グループ+宮城で 2 グループ+その他（1 グループ）

セッション1：「がん相談支援センターの様々な発展経緯」：

院内の関係者から理解を得る、関連診療部門との信頼関係を構築する等、院内の足場を確立する過程で私たちが心がけてきたこと

- ① 十和田市立：新谷委員
 - ・ 当院の相談支援センターの紹介・経緯
 - ・ 前院長赴任後、「包括的がん医療」に対してスピード感ある変革
 - ・ 相談支援センターの体制の変遷：（設置場所の変更、相談員体制の充足）
 - ・ チーム力としての機能を整備
- ② 中通総合：船水委員
 - ・ 当院の施設概要とがん診療
 - ・ 昨年度 相談実績
 - ・ 院内で足場を確立するため心がけてきたこと
 - ・ 院内外での周知を図るために・・・
- ③ 公立置賜：高石委員
 - ・ 当院の相談支援体制の紹介
 - ・ 相談しやすい環境整備と、相談支援の体制強化のための取り組み（経緯）
 - ・ 認知度の向上 ・ 相談窓口常駐化の実現 ・ スタッフの充実と多職種協働（院内）
 - ・ 地域連携とネットワークの強化（院外） ・ サロンの開催
 - ・ 今後の課題

セッション2：「1施設を超えて患者さん・そのご家族を支えるためにできること」

対応力（専門性、体制面のキャパ等々）の空白、窓口の（地理的な）空白等、いろいろな「相談支援の空白」を少なくしていく為に、私達ができること

- ④ 竹田総合：佐藤委員
 - 空白地域と推測される相双地域・南会津地域のがん相談のニーズを考える
 - ・ この地域の関係機関の調査からみえてきたこと
 - ・ 空白地域の関係機関とがん相談員とのネットワークの構築にむけて
- ⑤ 八戸市立市民：大角委員＋青森県田中主幹（コメント）
 - ・ 「青森県がん情報センター」が開設する情報サイトにおいて、がん相談に関するコンテンツ作成の経緯（著編を担ったがん相談情報 WG の活動内容、コンテンツに盛り込んだ内容（相談データ入力用フォーム、よくある相談に対する一般的な回答など）、コンテンツのメリット（デメリットも？）、ワーキンググループ結成の効果
 - ・ これからの展望（コンテンツの定期的な見直し、がん相談員が変わった場合の対応、相談員ネットワーク作りのツールとしての活用など）
- ⑥ 東北大がんセンター先進包括的がん医療推進室真溪さん＋宮城県大江主幹（コメント）
 - ・ 拠点病院空白地域における多機関・多職種の協働
 - ＜登米地域在宅緩和ケア普及・啓発市民講座の開催を通じた取り組み＞
 - ・ 県全域のがん患者さんご家族への情報発信
 - ＜がん相談支援センター広報用資材、がん情報ポータルサイト「がん情報みやぎ」、患者必携みやぎがんサポートハンドブックの作成＞
- ⑦ JA 秋田厚生連由利組合総合病院：武田委員
 - 「院外で初開催した～サロン「おひさま」inカダーレ～から見えたもの」
 - ・ これまでのサロン「おひさま」
 - ・ サロン「おひさま」inカダーレの企画から開催までの院内連携、院外連携